

大阪大学工業会海外交流助成金 「渡航報告」

〔学生の部〕

海外渡航報告書

大阪大学大学院 工学研究科 機械工学専攻
博士後期課程 1年 和泉遊以

【参加会議】 12th International Conference on Fracture

【開催場所】 Canada, Ottawa

【開催期間】 July 13-17

飛行機を乗り継ぐこと約 20 時間、本会議の開催地であるカナダの首都オタワに降り立つ、そこにはきれいな町並みと涼しく快適な気候が待っていた。異国に降り立った喜びと、会議出席への緊張感とともに、初日の寝どこにつく。ICF は、材料の破壊・疲労・強度における最先端の技術に関する議論を行い、構造物の健全性を追求する歴史ある会議である。会議は午前 8 時 30 分から午後 17 時まで、5 日間に渡り熱い議論が繰り広げられる。私の発表は 4 日目の午後のセッション、興味ある講演を傍聴、時折オタワの街を観光しつつ、来たるべき日を待った。

会議 3 日目の夜、参加者の交流を兼ねた懇親会に出席した。テーブル席には、日本人の大学院生も同席しており、外国の方と会話するチャンスは少なかった。しかしながら、唯一話しかけて頂いたネイティブの方が、教科書に頻繁に掲載されるほどのお偉い先生だとお聞きしたときには驚いた。そういった方々の目に、自分の研究がどう映るのか？ ・ ・ ・ 不安と楽しみな気持ちを抑えつつ、翌日の発表に備えた。

発表当日の早朝、講演内容の確認を済ませ、会場に向かった。私の発表は、赤外線サーモグラフィを用いて構造物に存在する疲労き裂を検出・評価する技術に関するものである。途中、レーザーポインターが故障するアクシデントに見舞われつつも、20 分間の講演をなんとか終えることができた。そのセッションと私の講演内容が若干マッチしてなかった所があったのか、あまり活発な討論とならなかったのは残念ではあったが、比較的満足のいく講演が行えた。また同セッションでは、同年代の日本人の方が実にスムーズな英語で対応をされているのを拝見した。満足感とこれからの研究生生活への弾みを与えてくれた会議となった。講演を終えた日の夜、共に会議に参加した研究室の学生と先生方、および他大学の先生方を含めた数人で、きれいな景色を見渡せるレストランで食事をした。日が長く、ゆっくりとした時間が流れるオタワの夜を堪能しつつ、今回の会議を終えた。

今回の渡航では、海外で講演・議論をするという貴重な経験に加え、多くの方々とコミュニケーションを図る場を頂いた。これも、大阪大学工業会のご支援あつてのことである。ここに深く感謝致します。



学会会場



国会議事堂

海外交流助成金「渡航報告」は、提出されたままを掲載しております。

海外渡航報告書

International Conference on Yeast Genetics and Molecular Biology に参加して

大阪大学大学院 工学研究科
生命先端工学専攻 生物工学コース
博士後期課程 2年 Walter A. Lavina

参加会議 : The 24th International Conference on Yeast Genetics and Molecular Biology

開催場所 : University Place, Manchester, United Kingdom

滞在期間 : 平成 21 年 7 月 19 日～24 日

My purpose for participating in the 24th International Conference on Yeast Genetics and Molecular Biology held in Manchester was to acquire information regarding the latest developments in yeast research especially in the field of signal transduction for possible application to my research.

The conference included 80 oral presentations and 375 poster presentations and was attended by more than 500 yeast geneticists and molecular biologists from 37 countries.

The oral presentations were divided into two sessions namely the plenary and the parallel workshop sessions. The topics that were discussed included chromatin and genome stability, chromosome transactions, control of gene expression, genomes and evolution, cell cycle and morphogenesis, signal transduction, yeasts as cell factories, yeasts as pathogens, yeasts as models for aging and human disease, protein trafficking, systems biology and synthetic biology. There were also demonstrations of various bioinformatics database systems tools from different bioinformatics tool providers. The poster presentations were held after the oral presentations wherein the participants were able to discuss and exchange ideas about various topics concerning yeast genetics and molecular biology.

The oral presentations were very informative and the subjects discussed were very innovative. A lot of the presentations involved genome-wide studies of cellular mechanisms that required years of intensive study to finish. I was particularly enthusiastic with the signal transduction lectures because it is my research topic.

This conference was very helpful in shaping my future experiments for the completion of my study. Obtaining new information and exchanging ideas with other scientists were very beneficial in formulating alternative approaches for analyzing my data. For example, genome-wide studies of different signaling cascades reported complex inter-relationships among different pathways, thus I plan to check the involvement of other signaling cascades like PKA and TOR pathways in the calcium phenotype of *ptp2Δmsg5Δ*. Also, global gene analysis revealed many new types of protein-protein interactions and signaling pathways thus; I plan to adapt this strategy to determine the substrate/s of Ssk2, Ptp2 and Msg5 and their associated transcription factor/s.

海外渡航報告書

機械工学専攻 マイクロ機械科学部門 燃焼工学領域
博士後期課程 2年 福井 淳一

- 【参加会議】 22nd International Colloquium on the Dynamics of Explosions and Reactive Systems
【開催場所】 Minsk, Belarus
【開催期間】 July 27-31, 2009
【論文題名】 Three-dimensional Numerical Simulation of Spray Flame in Laminar Counterflow

今回参加した国際会議（ICDERS 2009）は、燃焼場の数値解析を行っている研究者が多く集まる学会である。私にとって、海外で開催される国際会議への参加はもとより、海外への渡航も初めてであったため、本会議への参加を通して、多くのことを学ぶことができた。

渡航のために準備したことは、航空券の手配、宿泊先の確保、ビザの取得が主である。会議はベラルーシという、日本ではあまりなじみのない国で開催されたため、入国のためにビザが必要となった。ビザの申請には、ベラルーシ国内の機関が発行した招待状が必要であったため、国際会議の事務局に連絡を取り、招待状を郵送していただいた。その後、在日ベラルーシ大使館にビザ申請用紙、パスポート、招待状を郵送し、程なくしてビザを取得することができた。渡航に必要なものは、国際会議開催日の約2ヶ月前にはすべて揃えることができたが、ベラルーシで主に使用されている言語はベラルーシ語またはロシア語であること、日本ではあまりベラルーシに関する情報が手に入らなかったことから、現地での生活に関して一抹の不安が残るものとなった。

旅程は、日本を出国後、ドイツ・フランクフルトで一泊し、翌日にミンスク・ベラルーシに到着するというものであり、帰りは逆の経路で帰国した。ベラルーシの入国時には、強制加入保険の手続き、外国人登録用紙の記入が必要であり、これらを済ませた後、入国審査に向かうものとなる。入国審査は軍の関係者により行われていたため、いささか緊張したが、無事入国することができた。後に知ったことだが、入国に必要な書類の不備により、会議参加者のうちの一部のグループは入国を許可されなかったようだ。

会議は、ミンスク市内の“Palace of Trade Union”（図1）で開催された。会場の建物を含め、ミンスク市の中心部にある建築物には、建物のベースを大型の石材を用いた重厚な造りとし、その外観を精緻な彫刻で装飾するという手法が採られており、そのすばらしさに圧倒された。また、市内にはいくつもの緑あふれる公園があり、ごみもほとんど落ちていない、非常に美しい街であった。

私の発表は会議の日程の4日目であったため、会議が始まって数日の間は、他の発表者のプレゼンテーションを聴講する日々が続いた。研究内容の説明の仕方や表現の技法などのレベルが高い発表を聞いていると、自分のプレゼンテーションに関する技法の未熟さを痛感したが、自分の発表では出来るだけのことをしようと割り切り、プレゼンテーションの技法を学び取ることに努めた。自分が発表する日が来て、セッションの開始前にノートパソコンとプロジェクタの接続をチェックしたところ、発表用スライドがスクリーンに表示できない問題が生じたため、急遽、会場の予備のノートパソコンで発表することとなった。自分が持ってきたパソコンとは使用が異なるため、動画を再生する部分で若干手間取ったものの、無事最後まで発表することができた。質疑応答では、パラメータの定義に関する質問を1件、研究全体に関わるコメントを1件いただいた。発表終了直後は、無事発表することが出来たという思い出いっぱいであったが、今思い返してみると、まだまだ改善すべき点がたくさんある。この経験は、次の英語での発表時に活かしていきたい。

今回の国際会議への参加を通して、研究に関連する新たな知識が得られただけでなく、異国の街作りや生活に関するシステムなどの文化の違いを肌で感じ取ることができた。このような有意義な国際会議への参加は、大阪大学工業会のご支援によるものであり、ここに深く謝意を示す。



図1 国際会議の会場